

平成24年度村民意見交換会の結果概要

第1回の村民意見交換会（父島・母島共通）では、まず様々なデータによって遺産登録後の変化を皆さんで情報共有しました。主な項目は次のとおりです。

1. 人口 平成22年4月 2,486人、平成24年4月 2,538人
平成18年以降微増傾向

2. 世界遺産関連事業費

環境省、林野庁、国交省（振興開発事業）、東京都の事業費を資料で比較
振興開発事業以外は増加から横ばい傾向

3. 警察業務取扱の推移

事故は特に増加傾向はないが、遺失届・拾得物（忘れ物・落とし物）は増加。

4. 来島者

観光客（おがさわら丸）

平成22年度 13,572人、平成23年度 21,584人 1.6倍

61歳以上の高齢者の伸び率が高い。月別にみると、10月、11月、3月の閑散期に伸びている。

5. 入場数、売上等

海洋センター、ロース記念館の入館数、バス売上げ、ラム酒売上げ すべて伸びた。

6. 許認可

環境省 自然公園法関係、林野庁 入林許可関係は過去5年でばらつきあり。

7. 観光満足度調査

平成22年度から平成23年度で「再来訪意向」や「総合満足度」など主要項目で低下。今後の受け入れにあたって要注意。

8. 保全対策

(1) ノネコ対策 父島山域のノネコ捕獲頭数減少（生息密度低下）

(2) アカガシラカラスバトの状況

平成24年になって目撃情報が増加。人里でも目撃。

(3) ネズミ類への対応

父島、聳島属島の一部で駆除を実施。兄島、弟島では根絶に失敗。

今後、母島属島で実施予定。

(4) 外来植物駆除 各機関が各地で実施

(5) オガサワラオオコウモリ対策 農作物被害対策を実施中。

(6) 外来種普及啓発事業 南島島で実施。

◎当日は、さらに詳細な「基礎資料集」を配布しています。

村民意見交換会取りまとめ

世界自然遺産の価値観を持続的に維持していくためには、そこに居住する村民とともに遺産価値を保全する施策を実施している。そのためには、行政との連携が重要なことから、遺産保全の取り組み状況の情報や村民が肌で感じている情報を共有し、遺産登録後の様々な課題を村民とともに考えていくことを目的とし、平成24年10月と平成25年1月に、父島、母島でそれぞれ2回にわたり開催し、以下の項目に関する多数の意見をいただいた。

1. 主な意見（項目）

「村民生活（観光・産業を含む）」分科会

- (1) 公衆トイレについて
- (2) ごみについて
- (3) 観光利用のあり方
- (4) 今後の観光動向
- (5) 世界自然遺産地域小笠原の売り方
- (6) 世界自然遺産・観光客増を村民生活にどう取り込むか
- (7) 小笠原村陸域ガイド登録制度について
- (8) 農業について（地産・地消を含む）
- (9) 航空路について
- (10) 村民のモラル（駐車場の問題）について
- (11) 船舶関連について
- (12) 看板について

「遺産価値の保全」分科会

- (1) 自然保全の取組の考え方・姿勢
- (2) 小笠原の自然の価値
- (3) 外来種対策と村民の生活への影響について
- (4) 新たな外来種問題への対応
- (5) ボランティア活動について

その他

- (1) 話し合う場の設定、様々な会議の公開について
- (2) 広報について（多数の村民の参加を促す手段の検討）
- (3) 東北大震災の復興・防災予算について
- (4) 村民意見交換会の進め方について
- (5) 島民への普及啓発について

2. 村民意見に対応する今後の進め方

2回の村民意見交換会で出された貴重な意見について、3回目以降の意見交換会で報告をしていくために、以下の考え方を基本に事務局で各意見を整理し対応していきたい。

(1) 既存の枠組みで検討する

- ① 行政組織での対応
- ② 既存の検討会等での対応

(2) 対応する既存の枠組みがなく島内関係機関で新たな検討組織で検討する意見

- ① 短期的対応案件
- ② 長期的対応案件

(3) 村民とともに意見交換会を通じて構築する案件